

『久知軍記』伝本雑攷補遺

鈴木 孝庸たか つかね

「佐渡・越後文化交流史研究」第2号（二〇〇二年三月）に、拙稿「佐渡の戦国軍記―『久知軍記』伝本雑攷―」を載せて頂いた。その後、『久知軍記』に関して、池田哲夫氏の貴重な御教授を得たので、本稿は、前稿をとりあえず補足しようとするものである。

「佐渡・越後文化交流史研究」第2号の発行後まもなく、池田哲夫氏より、『久知軍記』の翻字つき影印本をいただいた。その本は、『久知軍記』の著者・野田養宅の御子孫・野田皆右エ門家に伝わっている家宝の本を公刊したものとこのことで、両津市文化財調査審議会の編として、両津市教育委員会から昭和六十二年（一九八七）三月に発行されている。

佐渡の戦国時代を記した『久知軍記』の伝本について、私は、「越佐叢書」本と「戦国史料叢書」本と鶺鴒文庫本とを比較検討した結果を、平成十三年（二〇〇一）十二月十三日（木）に口頭発表を行い、右記研究誌に発表した。池田氏が情報をお持ちかもしれないとは思いつても、先だつてうかがわなかったのは、まずは自分なりに考えてみてからという日頃の片意地のなせるわざである。十五年前に公刊されていることを知らなかったことを大いに恥じ反省した次第である。

御教授いただいた影印本は、底本の見開きを各頁の上段に掲げ、その下段に翻字を付している。影印部分92頁である。この本（底本）は、実物を拝見する機会を得ていないので書誌を報告できないが、影印本の解説によれば、全一卷一冊、外題不明のようである。内題は目録題「久知軍記目録」とある。目録は巻頭に掲げられ、さらに本文中にも章段名を記している。章段は全三十八で、これまで知られた伝本と変わりはない。『久知軍記』の著者である野田養宅の御子孫の御所蔵となれば、さしあたり「原本」というべきものであろうが、これを原本と見なした時に、前稿で検討したことがらが解決するのかがどうか課題となる。

私の前回の報告は、『久知軍記』の活字刊行本と（その時点では唯一調査することができた）鶺鴒文庫蔵の写本の比較検討を通して、未知の写本ないし原本を想定したのだが、その時に抽出した伝本間の本文異同箇所について、右の野田本（仮りの呼称として）を照合してみた。想定されたことがらが、野田本によってすべて解決されれば、野田本を原本とみてもいいことになる。しかし、結果は期待

通りではなかった。

◎ 野田本『久知軍記』の本文が、越佐叢書本と鶺鴒文庫本の異同のどちらに位置するのか。第2号の12頁～16頁に掲げた異同箇所について、結果だけを表示する。どちらとも判断できないものは、中間に○印をすることにした。

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 21 | 20 | 19 | 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 09 | 08 | 07 | 06 | 05 | 04 | 03 | 02 | 01 | 越佐 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | |
| ○ | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | ○ | ○ | 鶺鴒 |
| | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | |
| 42 | 41 | 40 | 39 | 38 | 37 | 36 | 35 | 34 | 33 | 32 | 31 | 30 | 29 | 28 | 27 | 26 | 25 | 24 | 23 | 22 | 越佐 |
| | ○ | ○ | | | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | | | | ○ | | | | ○ | |
| | | | ○ | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | 鶺鴒 |
| ○ | | | | ○ | ○ | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | |

この対照から言えることは、
い、野田本は鵜飼文庫本に近い。

ろ、(前稿の検討では、越佐叢書本の方が良質本文が多かった。越佐叢書本25、鵜飼文庫本13である。)今回の結果では、野田本の本文の良質18である。野田本は、「比較的」「善本」と言うことはできる。

は、「原本」ではないことを示す痕跡として、写本の「目移り」を指摘し得る。鵜飼文庫本は、明らかな「目移り」を、四箇所指摘できた。このうち、二箇所は、野田本も「目移り」となっている。野田本は「原本」なのだろうか。

まとめ

一、野田本『久知軍記』を、現時点では原本ということに躊躇する。

二、しかし、原本が必ず良質本文であるとは限らない。

三、いずれにしても、さらに精査が必要。また、他の伝本の情報をまちたい。

付記

池田哲夫氏の学恩に深く御礼申し上げます。

本稿は、「佐渡・越後の軍記に関する二題」の題で、平成十五年(二〇〇三)一月二十四日(金)に口頭発表を行ったもの
の一部です。当日、御意見を頂戴した小林昌二氏、荻美津夫氏、池田哲夫氏、飯島康夫氏、呉賢權氏に御礼申し上げます。
なお、当日の発表は、『河中嶋五箇度合戦記／上杉輝虎注進状』の木活字本の伝本に関するものも含まれています。こちら
についてもいずれ公表の機会を得たいと思います。